

【授業科目】成人慢性期看護援助論 Adult Chronic Nursing

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
豊田 妙子、杉崎一美、吉田 和枝、小寺 直美、吉川 尚美	2年次後期	必修	2	46	演習	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	授業概要/慢性的な健康問題をもつ成人期の対象者を身体的、心理的、社会的な側面より理解し、対象者が主体的に療養生活を送るために必要な看護援助について教授する。 課題に対するフィードバック方法/提出されたレポートにコメントをつけて返却する。または、授業内で全体に解説・資料の提示を行う。 *実務経験を持つ教員が授業を進める							
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	①慢性疾患を有する人がたどる病態や治療とその影響について身体的、心理的、社会的な側面より説明できる。 ②緩和ケアを受ける人とその家族を理解し、看護について説明できる。 ③慢性疾患における代表的な治療法(検査を含む)と具体的な看護援助について説明できる。 ④慢性疾患を有する人とその家族のセルフマネジメント能力を高めるための具体的な援助について説明できる。 ⑤慢性疾患を有する人に関わるチーム医療における看護の役割について説明できる。							
時間外学習に必要な内容および学習上の助言	事前学習 第1回 成人看護学概論で学んだ理論や慢性期・終末期にある人の看護について復習しておく。(各60分) 第2~9、11~15回 教科書の該当部分を事前に読み、病態生理・治療などを整理し、疑問点を明確にしておく。事前課題が提示された場合は、その指示に従う。(各60分) 第16~20、22、23回 看護過程論の該当部分を復習しておく。各自、授業にあわせてアセスメント・関連図・計画と事例を展開し、疑問点を明確にしておく。(各60分) 第12・21回 呼吸訓練法・呼吸ケア・血糖測定について事前学習をしておく(60分) 事後学習 第1~23回 配布資料および教科書、文献等を用いて学びを整理する。疑問点などは十分に調べたうえで教員へ質問し、解決しておく。事後課題が提示された場合は、その指示に従う。(各60分) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指示に従ってください。							
授業計画	第1回 慢性期・終末期にある人とその家族への看護(チーム医療・継続看護含む) 第2回 緩和ケアを要する人とその家族の理解:緩和ケア・対象理解 第3回 緩和ケアを要する人とその家族への看護①:身体的ケア 第4回 緩和ケアを要する人とその家族への看護②:精神的・社会的ケア・スピリチュアルケア 第5回 主な治療を受ける患者への看護①:ステロイド療法を受ける患者の看護 第6回 主な治療を受ける患者への看護②:化学療法・放射線療法を受ける患者の看護 第7回 疾患や治療によるボディイメージの変容のある患者への看護 第8回 腎・泌尿器系の障害を有する人とその家族への看護:慢性腎臓病 第9回 循環器系の障害を有する人とその家族への看護:慢性心疾患 第10回 消化器系の障害を有する人とその家族への看護:肝硬変・肝がん 第11回 呼吸器系の障害を有する人とその家族への看護:慢性呼吸不全・肺がん 第12回 呼吸訓練法・口鼻腔吸引(演習)クラスを2分し、GW・演習を行う (COPD患者等への呼吸法指導、排痰困難者への口鼻腔吸引の実際) 第13回 造血機能障害を有する人とその家族への看護:血液腫瘍 第14回 脳・神経系の障害を有する人とその家族への看護:脳梗塞 第15回 代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への看護:糖尿病 第16回 慢性疾患患者の事例による看護過程の展開①(演習オリ・情報整理) 第17回 慢性疾患患者の事例による看護過程の展開②(一次アセスメント) 第18回 慢性疾患患者の事例による看護過程の展開③(全体関連図) 第19回 慢性疾患患者の事例による看護過程の展開④(二次アセスメント) 第20回 慢性疾患患者の事例による看護過程の展開⑤(看護計画) 第21回 血糖測定(演習)クラスを2分し、GW・演習を行う (自己血糖測定実施患者への指導、自己血糖測定の実際) 第22回 慢性疾患患者の事例による看護過程の展開⑥(SOAP記録) 第23回 慢性疾患患者の事例による看護過程の展開⑦(グループ内発表)	第1回 豊田 第2回 吉田 第3回 吉川 第4回 吉田 第5回 小寺 第6回 豊田 第7回 吉田 第8回 豊田 第9回 小寺 第10回 吉川 第11回 豊田 第12回 吉川 全員 第13回 豊田 第14回 杉崎 第15回 豊田 第16回 豊田 第17回 豊田 第18回 豊田 第19回 全員 第20回 全員 第21回 小寺 全員 第22回 全員 第23回 全員						
評価方法 評価基準	定期試験 60% 演習(看護過程(GW含む)・呼吸訓練・吸引・血糖測定) 40%							
教科書	黒江ゆり子編「成人看護学概論/成人保健」メヂカルフレンド社(2年次前学期「成人看護学概論」で使用)、系統看護学講座「成人看護学2~8、11」医学書院、阿蘇品スミ子ら「がん医療・がん看護」南山堂、(2年次前学期「治療学I~III」で使用)、新体系看護学全書「治療法概説」メヂカルフレンド社(1年次後学期「診断・治療学概論」で使用)、医療情報科学研究所編「看護がみえるvol.4看護過程の展開第1版」メディックメディア、M.ゴードン著、江川隆子監訳『ゴードン博士の看護診断アセスメント指針よくわかる機能的健康パターン』照林社、(2年次後学期「看護過程論」で使用)					参考書等	授業の中で適宜紹介します。	
学生への助言等	実習で受け持つ可能性の高い事例を交えつつ、慢性疾患を有する対象への看護について考えていきます。成人看護学概論や基礎病態学、診断・治療学、治療学などの科目と関連させながら事前・事後学習のうえ授業に参加してください。							